



第1回ドイツ派遣・高校生作文コンテストの最優秀者に選ばれた慶應義塾高校3年、三枝惇さんと横浜市立みなと総合高校3年、廣岡奈々子さんの二人は昨年12月26日、林文子横浜市長、渡辺巧教副市長を表敬訪問しました。



宮崎健みなと総合高校長、早瀬勇横浜日独協会会長らも同席。林市長は若い頃、ドイツ文化センター (Goethe-Institut) で3年間ドイツ語の勉強をしたことや、自動車ビジネスでドイツとの輸出入事業を担当した時代の思い出をまじえて「姉妹都市・フランクフルトでドイツの知識と体験を出来るだけ多く身に付けて来てください」と激励されました。

三枝さんは慶應義塾大学、廣岡さんはフェリス学院大学への進学が決まっており、3月5日には横浜市役所会議室で横浜日独協会の能登崇事務局長、大久保明常務理事、南雲淑子理事らから、ドイツ研修旅行にあたってのオリエンテーションを受けました。



先発の廣岡さんは3月20日、羽田発のANAでフランクフルトに着き、クラウス・カスパーさん宅でホームステイ。三枝さんは卒業式を終えた26日からアーニャ・グラバートさん宅にホームステイし、二人は31日に無事帰国しました。

5月17日(土)の横浜日独協会定時総会のあと、二人の「帰国報告」が予定されていますので、ご期待ください。

(高校生作文コンテスト委員長 磯貝 喜兵衛)

私が見たドイツの首相たち (中)



ヘルムート・コール首相
(CDU、在任1982年10月~1998年10月)

横浜日独協会会長
早瀬 勇

「ナチス時代の“統制 “からの解放」、これが戦後首相たちの最大課題でした。経済は企業間の自由競争と国民への社会的公正を、教育は「反権威教育」を掲げ、ヒットラー礼賛は刑罰になり、国を挙げて反ヒットラー一色でした。

ドイツ在勤中、左派も中道も政策に”sozial”(ゾチアール)という言葉が頻繁に使っていましたが、ソ連や日本でいう社会主義とは別物でした。ナチス時代の統制とは正反対の自由市場経済を推進しつつ、「国民全体のセフティー・ネットに配慮する政策」というのが在独中に受けた”ゾチアール “の印象でした。

戦後エアハルト首相らの「経済の奇跡」で蓄積した経済力が、東西ドイツ統一と欧州連合 (EU) 参加という歴史的事業に惜しげもなく使われました。経済力が向上し政治的発言も重みを増し、その後の首相たちはEUの中に活路を見出しながらも、底流にドイツ伝統の国家主義を持ち続けてきたように思えます。

ヘルムート・コール首相と旧東独ドレスデンで握手

戦後最大のカンツラー (ドイツ首相) は誰かと問われれば「それはコールでしょう」と答えます。何しろ東西ドイツ統一とEU加盟を果たしたのですから。

東京銀行から鹿島に移り、出張先のドレスデンで鹿島施工のホテル・ベルビューに着くと玄関前に大勢のスーツ姿が並んでいます。コール首相の到着直前でした。偶然「君主の行列 (壁画)」の前で一行に会い、SPを掻き分け首相と握手しました。恰幅のいい目の鋭い方でしたが、掌は野球のグラブのように大きくフワフワと軟らかく温かい感触でした。1988年5月29日、ベルリンの壁が落ちる1年半前のことで、東西統合の布石を打っていたのでしょう。

コール政権初期の成功は、ドイツをEUとNATO (北大西洋条約機構) の枠内に位置づける事で米英仏ソの旧連合国の同意を取り付けたことでしょう。

ミッテラン仏大統領との強い絆で成立したエリゼ条約もEU成功の要因です。独仏両軍が死闘を繰り広げたヴェルダン共同墓地で、手を繋いだ二人が戦死者を鎮魂した時の写真は独仏友好の象徴として今もメディアに使われています。

コールにはゲンシャーという副首相兼外相 (FDP) が軍師官兵衛のように仕えていました。18年間も外相として欧州内でも国連外交でもドイツの国際的地位を高め、1989年9月30日プラハのドイツ大使館バルコニーから群衆に向かって西ドイツへの移動許可を伝えたのは有名です (40日後に壁崩壊)。東独にいた物理学者アンゲラ・メルケルを統一ドイツの首相に育てたのもコール首相でした。(了)

ドイツ・チェコ研修旅行の感想

登戸学寮 東京農工大学大学院工学府
情報工学専攻修士 佐藤泰吾

今回はドイツ・チェコ研修旅行としてフランクフルト、ベルリン、ドレスデンそしてプラハの4都市を観光してきました。フランクフルトでは独日協会の方々との会食を通して、ドイツの食文化や見所などについて教えていただき、旅行を続ける中で大変役立つ情報を得ることができました。また、大澤武男先生からお話を伺うことで、ドイツの文化や歴史について教えていただき、西洋史の知識が少ない私にとっても非常に興味深い話を聞くことができました。さらに現地の学生との交流も持つことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

ベルリンでは教会など歴史のある建物だけでなく、ドイツの近代的な文化にも触れることができ、他の都市とはひと味違ったドイツの楽しみ方を体験しました。また、世界最高峰のオーケストラの演奏を聴く機会も与えられ、充実した時間を過ごすことができました。

それ以降の行程では教会や中世の町並みを数多く観ることができ、そのすばらしい建造物や景色に目を奪われずにはいられず、時間の経つのも忘れて見入ってしまいました。

この8泊9日の研修を通し、日本では見られないヨーロッパ独特の文化や歴史に触れることができ、キリスト教を基に発展した欧州諸国の歴史の深さ、そして世界の広さを改めて感じることができました。グローバル化が急速に進む中で、日本を離れこのような体験を出来たことは、4月から社会に出る私にとって間違いなくプラスの影響になったと思っています。

このような機会を与えてくださった皆様、渡欧に先立ち貴重な情報を提供してくださった日独協会関係者の皆様には心から感謝致します。本当にありがとうございました。

登戸学寮 東京大学文科三類 上遠野 翔

今回、私たちが行ったのは、フランクフルト、ベルリン、ドレスデンの3都市と、チェコのプラハでした。最初に訪れたのはフランクフルトで、フランクフルト独日協会副会長の Stefan Zeidenitz 氏が空港まで迎えに来てくれました。その後フランクフルト市内のレストランで Zeidenitz 氏と、羽田 Knoblauch 真澄さんとともに食事をいただき、ドイツについてのお話をさせていただきました。そこで本場のフランクフルトソーセージを楽しみました。

次の日は朝から歴史学者の大澤武男先生にフランクフルト市内を案内してもらい、大変興味深いお話を聞かせていただきました。大澤先生のご著書は



ベルリンの壁の前で

以前読んだことがあり、今回会ってお話が出来たことは非常に光栄でした。大澤先生と別れたあとはシュテーデル美術館に行き、夜は日本語普及センターの学生の方と Zeidenitz 氏と共に食事をしました。次の日電車で4時間かけてベルリンへ行き、現地の Sophie Resova さんと合流しました。ホテルが東ベルリンに位置していたのでその日は Sophie さんの案内でベルリンの壁を歩きました。夜、Sophie さんのご友人も交えて日本の文化や日本語についてのお話をしました。翌日は Sophie さんに車でポツダムに連れて行っていただきました。冬だったためサンスーン宮殿には緑が少なくすこし残念でしたが、ベルリンに戻って乗った音声ガイド付きの観光バスに乗り、途中までですがベルリン市内をぐるっと回りました。その後 Sophie さんに付き合ってください買い物をし、夜はベルリンフィルハーモニックで J.S. バッハの『ヨハネ受難曲』を聞きました。

次の日の朝、再び私たちは電車に乗り、約2時間かけてドレスデンへ行き、ツヴィンガー宮殿やドレスデン城などを回りました。この日がドイツ滞在の最後の日となりました。ドレスデンでは私たちだけの行動となりましたが、フランクフルトおよびベルリンでは町の案内をしていただいたり、食事をさせていただいたり、様々な人にお世話になりました。

今回が初ドイツでしたが、僕たちにとってこの旅行はとてとても忘れがたく、最高のものとなりました。僕は西欧の歴史に興味があり、いずれは現地にて勉強をしたいと思っているので、もし機会があればこちらに留学してみたいと思います。それだけでなく、旅行であれなんであれまたドイツを訪れ、今度はもっとゆっくりじっくりと見聞を広げたいと望んでいます。最後になりますが、今回このような機会を与えてくださった方々に、数えきれない程の感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



「ヒトラーの贖札」を鑑賞して

会員 山田一之



この映画を鑑賞した3月8日の平和な土曜日の横浜の夕暮れ、幸せそうな人々とこの映画の暗い悲しい人達、どうにもならない絶望そして明日の命。その中であって生き残った人々が描く真実、どうにもならない私の心が重なり人間はなんともおろかな動物かと思った。

ナチがあれ程ユダヤ人をおそれ、きらい、こわいと思った理由が不勉強な私にはわからないが、600万人ともいわれるユダヤ人を殺害し、ロシア人1000万人以上の戦死者を出したと伝えられるドイツ人のおそろしさは私の知り合いのドイツ人から思うと本当か？と信じられない思いである。

日本もドイツも遅れて来た資本主義国であるという歴史。少なくとも第一次世界大戦のあとドイツナチも始めは選挙で勝って出てきて、革命の中から出てきたのとちがい二三回の選挙で政権をとり独裁国家になり第一次大戦の仕返し、それから3、4年で又ドイツも敗戦、そうゆう歴史の中から見る事が大切かと思う。

ザクセンハウゼンの強制収容所での出来事、イギリス経済の混乱と攪乱 ポンドそしてドル造り、戦況を少しでも有利にしようとした目的も連合軍の前にドイツが敗れ戦争が終わるのだが…。

ドイツはキリスト教、ユダヤはユダヤ教といずれも宗教的なバックボーンをもち人の幸せを願うのが宗教と思うがどうして人間同士殺し合いをするのか 戦場は生きるか死ぬかの瀬戸際 だれもが興奮状態で無我夢中だったんだろう。戦争程の罪悪はない。残酷で理不尽、人間性否定の映画。

そして今、日本はどうだろう。政府の右翼化が心配。これは私一人ではないと思う。平和で安心して暮らせる日々を願っている国民。その中であってど

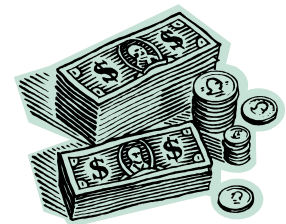
うゆうわけか、ドイツ周辺諸国から いわゆる靖国問題が聞こえて来ないのはどうしてだろう。戦犯問題の処理がちがったのでしょうか？ 当然ドイツも戦犯がいたはず、戦後70年も過ぎようとしている今、日本は中韓から問題をつきつけられ この問題の処理、政治家達、右も左も学んだ方が良いのではないか？ どこかが日本とちがう？それは何か？戦争の総括ちがい？それとも？国の指導者の間違った方向、指導者の責任の大きさというものを感じる。

日本も終戦があと少し早かったら広島、長崎もなく沖縄戦もなく3月10日の東京大空襲もなかったろう。でもあの頃は 最後は神風が吹くと信じていた軍国少年の私。教育のおそろしさを身をもって感じる昨今です。

靖国問題も私が思うに歴代の首相も死ねば それぞれの先祖代々の墓に入っているではないか。合祀とか分祀とかいっているが、それぞれのふる里に帰ってもらえば良いではないか。戦争犯罪者だけがなぜだろう。人類に貢献したノーベル賞をもらった人々も自分のうちに帰っているのに…。

赤紙をもらい死を迎えた人達、外地でいまだに故郷に帰れない多くの人達をそれこそ首相がとむらうべき。赤紙を出した人達の責任はどこに行ったのだろう。まして日本一国の問題でなく多くの他国の人達をもまきぞえにした責任や戦争を知らない政治家達。この映画でドイツ人自らの恥部をえがくすごさ…

人類皆兄弟と思っている私。何はともあれ私自身残り少ない人生、子や孫の時代も平和であってほしいと願わずにいられない。あれは70年前の出来事だといっていられない。戦争反対でこの映画の感想を終わりたい。



モトスミ・ブレーメン通り商店街 <第4回ブレーメンバンド>

ブレーメン通り商店街には全国に例のない商店街所属のビッグバンド ブレーメンバンドがあります。バンドのリーダーは商店街の役員小宮隆一さんです。メンバー25名全てが商店街の会員ではありませんが、広報部長や青年部員、実は私の娘もキーボードを担当しています。最初は青年部員3人で始めたのですが今ではビッグバンドを編成できるまでの大所帯に成長しました。2011年5月にはブレーメンのロイドパサージュで東日本大震災の募金活動を兼ねて海外公演を行い多くのブレーメン市民から義捐金の協力をいただきました。今年の定期演奏会は7月27日(日)午後1時から川崎市国際交流センター(東横線元住吉駅下車)で開催予定しています。

広告

<年会費納入ご案内と納入方法変更について>

新年度に入りますので、2014年度年会費の納入をお願い申し上げたく、会員の皆様のご支援を引続き宜しくお願い致します。会報第20号に同封の「2014年度年会費納入のご案内」の通りですが、今回より納入方法が変更となります。主な変更点は次の通りです。

- ・納入方法：会報に同封の「**払込取扱票**」でお支払いください。なお、振込票の通信欄に**住所、会員名及び「2014年度年会費」**とご記入ください。
- ・振込口座：従来の横浜銀行より**ゆうちょ銀行**へ変更となります。
- ・納入金額：
会員－3000円、家族/学生会員－各2000円
- ・詳細は同封のご案内をご参照ください。
(お問合せ；事務局-Tel: 045-546-0801)

zwischen zwei Kulturen

Das Parfum



会員 大島レオナルド

日本では男性用の香水はあまり販売されていない事に気が付きました。友人(日本女性)に理由を聞いてみたら「日本人は臭くないから」と言われました。確かに歴史的にも考えると江戸時代から銭湯も公衆トイレもあった時期にヨーロッパではお風呂に入る週間は無かったんですね。だからヨーロッパで香水が発達したのは必然でした。

Mir fiel auf, dass in Japan Männerparfum kaum verkauft wird. Als ich eine japanische Freundin von mir fragte, antwortete sie mir: „Japaner stinken nicht.“ In der Tat gab es in Japan in der Edo-Zeit bereits öffentliche Bäder und Toiletten, während es in Europa noch nicht einmal eine Badekultur gab. Das Parfum hat sich daher in Europa als Notwendigkeit etabliert.

横浜日独協会会報

発行 2014. 4. 1 (第20号)

事務局：〒223-0058 横浜市港北区新吉田東2-2-1-913

能登 崇 方

Tel & Fax: 045-546-0801, e-Mail: tak_noto@yahoo.co.jp

会報編集責任者 大久保 明 編集委員 山口 利由子

e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://idgv.sub.jp/index.html>

行事予定

■平成26年4月4日 ハンブルクさくらの王女歓迎会

■平成26年4月例会：

- ・日時； 4月12日(土) 午後3:00～5:30
- ・会場；ワールドポーターズ6階会議室①+②
- ・内容；講演会 坂井啓治運営委員
『オーバーアマガウの受難劇と復活祭』
－10年に一度の有名な宗教劇を観劇して－



・会費； 1000円 懇親会 500円

■平成26年4月21日フランクフルト独日協会よりの来訪 全国日独協会連合会年次総会開催

■平成26年5月 定時総会/例会：

- ・日時； 5月17日(土) 午後2:30～5:30
- ・会場； ワールドポーターズ6階 会議室③
- ・内容； 2:30～ 定時総会
3:30～ 作文コンテスト派遣高校生による帰国報告会

初のドイツ滞在で何を体験されたのでしょうか？

・会費； 1000円 懇親会 500円

■平成26年6月例会：

- ・日時； 6月21日(土) 午後3:00～5:30
- ・会場； ワールドポーターズ6階 (予定)
- ・内容； 講演会 石積 勝 神奈川大学学長
演題 (未定)
- ・会費； 1000円 懇親会 500円

編集後記

*この度編集者を辞することに致しました。Der Hafen の第1号から19号まで3年間、隔月の発行を遂行できました事は、皆様のご支援ご協力あつてのことと深謝申し上げます。

20号より向井理事にお引き受け頂き山口さんと新たな紙面作りをして頂きます。私自身新たな展開を大変楽しみにしています。お二人に一層のご支援をお願い致します。(大久保)

*今回の会報から、大久保理事との引継ぎを受けながら勉強させてもらっていますが、このわが協会が発行する「Der Hafen」は、出来るだけ広範囲で興味ある情報をタイムリーに会員皆様へご提供すべく、如何に綿密にその構成を練りながら取材し紙面を100%無駄なく校正した上で長時間のプロセスを経てやっと出来たものであることが分り、これまでの大久保理事と山口運営委員のご努力とその卓抜な才能に対し敬服せざるを得ません。次回号から急に質が低下したと皆様からご批判を受けないように頑張りたいと思います。(向井)

*大久保編集長と相談しつつ会報を改良してまいりました。いつも頼りにさせていただいておりました。また違う場で活躍されることを期待しております。今迄、お世話になり有難うございました。(山口)

法人会員

株式会社文芸社 ウィンクレル株式会社 ポッシュ株式会社 フェリス女学院大学
トルンプ株式会社 モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 株式会社テレビ神奈川
公益財団法人登戸学寮 株式会社コトブキ